

1. 皆さん、こんにちは。ステファニー・リッツと申します。今日は私のキャプストーン、「日本とアメリカでの外国語の必要性に対する認識度の比較」を発表したいと思います。
2. こちらは研究の概要です。
3. なぜ私がこの研究テーマを選んだかですが、それは、日本で留学していた際、英語を勉強している学生に会った時、彼らは外国語をどこで、何をしたいと思っているかを知りたいと思ったからです。日本とアメリカでの外国語の必要性はどのように違うのか、また学生はどのような目標を持ち、満たしていきたいと思っているのかももっと深く知りたいと思いました。
4. こちらが研究質問です。一、外国語を学んでいる日本とアメリカの大学生は、自分の国の外国語の必要性をどのように考えているのか。二、日米の学生は、どのような外国語の必要性を満たす具体的な目標を持っているのか、の以上です。
5. それでは、この研究の背景についてこのような項目の順に説明致します。
6. ではまず、日本での英語教育についてご説明します。日本では「主要科目」として外国語が主に英語を教えます。新しい法律のため、小学校の5年生から高校の3年生までの8年間英語教育を受けることになっています。
7. 英語教育は、政府のグローバル化の大事な事項です。また外国語は大学に入学するためにも重要です。「大学入試センター試験」では外国語が大学に入学するためにも大事な教科です。この「センター試験」での主要科目には、国語、地理、歴史、公民、数学、科学と、外国語があり、外国語としてはほとんどが英語を選びますが、独語、仏語、中国語、韓国語もあります。
8. アメリカの連邦政府では外国語が「主要科目」に入っていますが、カリフォルニア州では入っていません。卒業のために1年間外国語か美術を選択することになっています。アメリカの中で教えられている外国語のトップ3はスペイン語、仏語と、独語です。
9. しかしカリフォルニア州立大学やカリフォルニア大学等のカリフォルニア州立の大学に入るためには高校での最低二年間の外国語が必要になっています。

10. 次に「外国語の必要性」に関してですが、国で効果的にコミュニケーションできる人材の「必要性」があります。例えば、国内では移民や継承語話者のため、海外で働いたり、政治等の面でも外国語が必要になります。ただその、外国語の必要性を計るための共通なスケールやテストはありません。
11. それではここで「ゴール設定」という教育理論について紹介したいと思います。ロックとレイサムによると一番大事なのは、より具体的でチャレンジを促す目標を設定することが成功と満足度を高めるとしています。二つの動機は繋がりがあり、また重なりあいます。例えば、庭造りを楽しみながら、また、農産物を収穫するという動機のようなものです。
12. それでは次に私が行った研究調査の結果について発表したいと思います。この調査には45人の大学生に参加してもらいました。その内訳は日本人の25名、アメリカ人の20名です。オンラインでアンケートを通してデータを集めました。
13. こちらは参加者のうち、アメリカ人は85%が四年生で日本の場合は64%が二年生でした。
14. では研究質問1の結果を発表いたします。
15. まず、外国語は必要とされるトップ3では、80%以上のアメリカ人と日本人の参加者は仕事、教育、政治に重要な外国語の必要性があると思っていることがわかりました。
16. それに対して、社会において、外国語話者の必要性を満たす項目としては80%以上のアメリカ人と日本人は仕事および政治のニーズを満たしているが、まだ外国語のニーズがあるとしています。また、50%未満の参加者は外国語の教育においてのニーズが満たされているにすぎないと思っていることがわかりました。
17. 次に回答者に外国語の必要性を満たすために、どの程度取り組むことが必要だと思うかを評価してもらった結果、アメリカ、日本でもトップ3に上がったのは教育、政治と、仕事でした。

18. 全体的にみると、自分の国は外国語の必要性を満たしていると思うかという問にはアメリカ人は国が「ある程度」外国語のニーズを満たしているという意見が50%を占めました。その一方、日本では、国がニーズを「あまり」満たしていないと答えた日本人は58%でした。
19. どの程度、あなたの国の外国語の必要性に貢献することがあなたにとって重要かという問にたいしては両国の外国語学習者は自分の国のニーズに貢献することが重要だとし、56%のアメリカ人が「非常に重要」、42%の日本人が「かなり重要」と回答しました。
20. ここで研究質問1の結果をまとめたいと思います。まずは、両国で外国語のニーズがあるのは仕事、教育、政治面です。アメリカ人と日本人は仕事面では外国語の必要性を満たしてはいると言っていますが、もっと必要であると思っています。また、日本では早くから外国語教育を提供していますが期間より内容に目を向けなければいけないとしています。そして両国の外国語を勉強している学生は国のニーズを満たすために是非貢献したいと思っていることが分かりました。
21. 次は研究質問2についての結果を発表いたします。
22. 外国語を学んでいる目標で最もふさわしいものとしてあげられたトップ3は両国とも似ていることがわかりました。アメリカ人は外国語を聞いて理解すること、仕事、そして翻訳通訳があげられました。日本人も仕事、海外での仕事そして母語話者のように上手に話すことです。
23. 達成したいと思っている外国語能力について目標を達成するのはどのくらいむずかしいと思っているかですが、それは両国の大部分の学生は自分の目標を達成するにはむずかしいと思っていることがわかりました。
24. 次に、学生たちの学ぶ動機を調査しました。回答者は次の動機のタイプに関して様々な状況に関連した一連の質問に答えました。内因性のなかでは、

習得目標、達成の必要性の質問がありました。外因的のような質問は権威の期待、仲間の受け入れ、権力動機、と失敗を恐れる

25. ことを調査しました。肯定的な答えは具体的な動機を表し、否定的な答えは具体的な動機を表さないというものです。
26. こちらのグラフは学生たちの学ぶ動機を表わしています。暗い色は肯定的な答え、動機の傾向を示します。アメリカ人の最高動機と最低動機は達成の必要性と仲間の受け入れです。比較して、日本人の最高動機も達成の必要性ですが、最低動機は権威の期待です。
27. このグラフの結果は、両国の学生は高い内因性動機付けを達成することを示しています。アメリカの学生は仲間の受け入れに対するニーズにあまり影響されません。一方、日本の学生は権威の期待を満たすことに対するニーズにあまり影響されませんでした。全体的に、日本の学生のほうがより中立的な回答を選びました。
28. 外国語学習の主な動機としては、両国の学生の主要な動機は同じようです。日本にもアメリカにも文化を楽しむことと目標を達成する期待が動機に影響します。
29. ここで研究質問2の結果をまとめたいと思います。まずは、学生の目標は異なりますが、雇用機会や外国語を理解するのは一般的に共通していました。それと、それらの目標を達成することはむずかしいと思っていることがわかりました。また、両国の学生は内因性動機の目標が高いです。つまり、文化を楽しむことです。そしてそれは外国語能力を高めるのに貢献することもわかりました。
30. この研究をとおして、外国語学習者は、両国とも仕事、教育、政治に外国語話者がもっと必要だと思っていることがわかりました。また、かれらはぜひ、国の外国語の必要性に貢献したい願望が高いこともわかりました。将来、学んだ外国語の能力を国に貢献したいという思いは国の外国語のニーズに肯定的な影響を与えるとおもいます。

31. 最後に、研究の限界点げんかいてんと将来の研究課題かだいについてです。もちろん、この研究は外国語を学んでいる大学生を対たい象しやうにした研究でしたから、全国の意見や目標を表していません。今度は、外国語を学んでいない学生や一般大衆いっぽんたいしゅうによって外国語の必要性をどのように考えているのかについて研究をおこな行ないたいと思います。
32. これが参考文献さんこうぶんけんです。
33. 最後に、ご指導しどうくださった先生方せんせいと支さえてくれた家族や友達かんしやに感謝をいたします。ありがとうございました。